

まちの魅力グループ

自分たちが生活するまちを見つめ直し、その魅力を発信することで、地域コミュニティを活性化する。その思いがこのグループの出発点でした。

メンバーは、東区らしさを特徴付けるものとして、札幌軟石やれんが造りの「たまねぎ倉庫」を選びました。それは、東区の歴史をたどる上でも意義があることに加え、年々その数が減少している一方で、ユニークな再利用の事例があったからです。

まず、たまねぎ倉庫を巡るバスツアーを実施し、実際に倉庫を訪ね、関係の方々からお話を伺いました。また、「たまねぎ倉庫からはじまるまちづくり」と題するフォーラムを開催したほか、倉庫の魅力を広く発信するため、たまねぎ倉庫を題材としたポストカードも制作しました。

メンバーは、倉庫の魅力をまちづくりに生かすためには、たまねぎ倉庫にかかわる方々との交流を進めることが大切と考え、「たまねぎ倉庫ネットワーク」を結成。倉庫を東区の財産として広く認



「たまねぎ倉庫ポストカード」

知してもらつたため、ホームページ <http://www.sapporoforum.com/tamane-gi> による情報発信も始めました。将来的には、より多くの人々がたまねぎ倉庫のあるまちに愛着を持ってくれるように活動を続ける予定です。



昨年3月25日に行われたフォーラム「たまねぎ倉庫からはじまるまちづくり」。たまねぎ倉庫の活用方法を考えました

暮らしと環境グループ

ごみの処理は地域コミュニティとも深くかかわる社会的行為です。このため、ごみ出しや分別のルールを守らない人がいることで、地域内の感情的な対立に発展することもあ

るようです。そこで、このグループは、ごみが地域の人々をつなぐキーワードになると考え、環境問題に取り組むことにしました。

まず、ごみの分別の徹底について検討。複雑な分別を誰もが分かるように一枚の表にまとめた「ゴミチャント」を考案し、それをプリントしたエプロンを制作しました。また、ゴミチャントを改良し、冷蔵庫など

に張れるようにした「ゴミチャント・マグネット」も作りました。



「ゴミチャント・マグネット」

さらに、それらを使いながら小学校や育児サークルで、分別に関するアンケートを実施。その結果、子どもも保護者ともに、ごみの減量やリサイクルについての意識が高いことが分かりました。

「ごみ」は厄介者ではなく、地域コミュニティをつなぐキーワード。そんな提案とともに、今後はメンバーそれぞれの自主的な活動を通じ、「ゴミチャント」を地域の方々とのコミュニケーションを図る道具として活用していくなど、地域に根差した活動を続けていきます。

市民会議の2年間の活動内容をまとめた報告書は、東区役所、区内の各地区センター、市民活動プラザで閲覧できます。また、同会議のホームページ <http://www.galaxy.city.sapporo.jp/higashi/shimin-kaigi/> でもご覧になれます。



3月24日に行われた「第2回コミュニティマーケットin東区」。37団体が参加し、団体同士や団体と区民の皆さんの相互理解を図りました

まちづくり市民会議は、市民と行政が連携した活動を地域に広め、町内会や市民活動団体などとの間に人的ネットワークを結ぶといった成果を挙げました。

区内の市民活動団体がその活動内容を発表したり、区民の皆さんに参加を呼び掛けたりする機会である「コミュニティマーケットin東区（通称COM_E）」の自主的な開催もその一つです。COM_Eは、今後も各団体が主体となって続けられる予定です。

市民会議のメンバーは、区民の皆さんとの協力を保ちながら取り組んできた活動を、さらに拡大していきます。地域に根差した活動がいくつも生まれることが、交流と参加の盛んな東区のまちづくりにつながっていくのではないのでしょうか。